


平成 26 年度 工系若手奨励賞 受賞者

〔研究者〕
 <p>氏名 塩崎太伸（しおざきたいしん） 所属 理工学研究科建築学専攻 職名 助教</p>
〔タイトル〕
歴史的住宅地エリアにおける住まいと庭の空間構成に関する研究
〔研究の概要〕
<p>日本においては、1970年代から80年代に郊外新興住宅地における「庭付き一戸建て」のブームがおこり、現在でも一定の需要が継続している。多くの住宅地では30～40年が経ち、世代交代がなされ、2世帯住宅への立て替えや、生活スタイルの変化による増改築等がおこなわれている場合もある。また、新築時に想定されていた庭の利用からは逸脱したさまざまな利用のされ方がなされていると考えられる。本研究ではそうした国内の一般的中層階級の「庭付き一戸建て」住宅地、および日本が参照していた西欧や欧米の住宅地、またアジアにおける住宅地の現在における「住まいと庭との空間構成の検討」と「庭の意味の考察」をおこなうことにより、これからの「家と専有庭の関係性」を検討する。</p>
〔オリジナリティ〕
<p>本研究では「家と庭の関係性」を考察する上で、〈植物〉〈庭石〉〈池〉〈遊具〉〈物置〉〈縁側〉〈物干し〉といった「庭の要素」についても重要な事柄と捉えた上で、それらの配列関係を整理するとともに、これからの家と専有庭の空間の意味を建築意匠論的に考察する。</p>
〔期待される成果〕
<p>世代の交代が複数回行われている海外の住宅地について同様の検討をすることから、専有庭の空間構成を類型として整理するとともに、これからの日本の住宅地における「家と庭の関係性」に対する新たな視座を得ることを目的とする。</p>